

# 二之江第三小学校応援団実践報告書

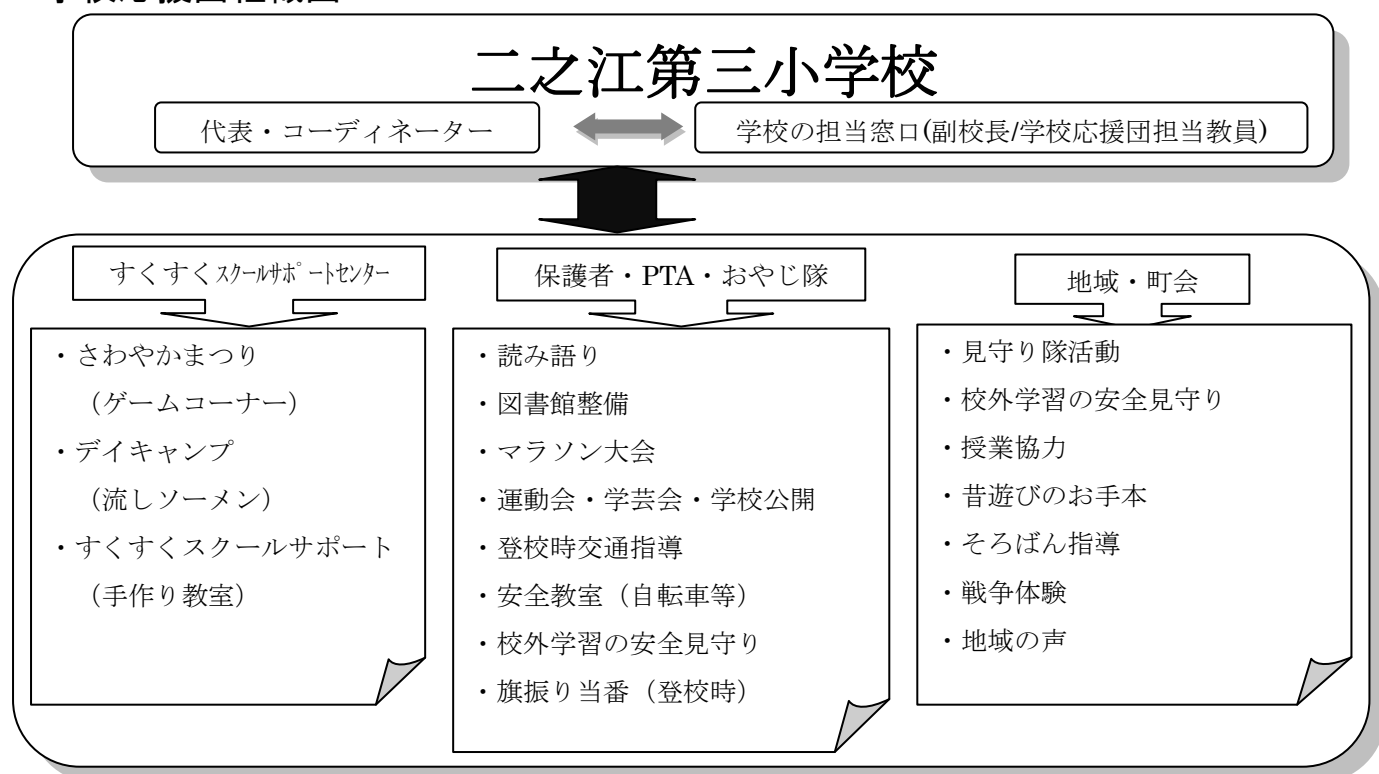
## 1 校長名及び代表氏名

二之江第三小学校長 磯部 豊  
学校応援団代表 樋口 清隆

## 2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
安全・安心	旗振り 朝の交通見守り 安全教室 校外学習の引率 マラソン大会	○登校時の安全を見守る。 ○通学路で登校の安全を見守る。 ○自転車教室等でのお手伝い。 ○校外学習をするときの安全支援 ○マラソンコースの安全確保
学習活動	ものづくり 昔遊びお手本 調理実習支援 図工学習支援 小松菜栽培支援 そろばん指導 戦争体験の話 地域の昔	○生活科・総合でのものづくり支援 ○昔遊びの支援をして、一緒に楽しむ。 ○安全を見守り技術指導の支援をする。 ○安全を見守り技術指導の支援をする。 ○小松菜栽培の指導や体験の支援 ○算数学習のそろばんの支援 ○社会科学習等で戦争について語る。 ○地域の昔についてお話する。
読書活動	読み聞かせ 図書室整備	○学級に入って本の読み聞かせをする。 ○本の修理や本の整頓を行う。

## 3 学校応援団組織図



## 4 今年度の成果と今後の課題

### <成果>

- ・年度当初に読書活動（読み聞かせと図書室整備）ボランティアを募り、参加者 26 名で、年間を通して活動することができた。学校図書館が整備され、児童が本を選ぶ時間が短縮し、本を読む時間が増えた。また、読み聞かせでは、担任や自分の保護者以外の方から本を読んでもらうことで、児童がより本に興味をもつことができ、充実した読書活動につながった。
- ・地域の方々を学校応援団としてのお力を借り学習活動の充実を図れた。例えば、地域のお年寄りによる昔の様子のお話や地域の小松菜畑農家の見学・体験など学習に役立させていただいた。

### <課題>

学校としては、今までも様々な場面で保護者や地域の方々に支援していただいていた。来年度からは、以下の4点が、本校の学校応援団運営にあたり、課題である。

#### (1) 人材不足（保護者・地域）

- ① 小規模校の本校において、保護者などの人数が少ない。共働き家庭が多く、PTA 委員も引き受けるかたが少なく困っている。
- ② 地域の町会へ応援団を頼らざるを得ない状況だが、町会では高齢化が進み、人材に苦慮している。

#### (2) 組織づくり

単発的な、学校支援活動は、その度ごとにボランティア募集をすればなんとか対応できる。しかし、1年を通じた継続的な学校支援活動は、学校応援団メンバーを確定させて組織として動くようにする必要がある。現状では、副校長・学校応援団担当教員が応援団を牽引する形になっていて本来のサポートとしての応援団組織には遠い。今後保護者や地域の人からリーダーとなって組織的に活動できるような体制づくりが必要である。

#### (3) 応援団メンバーの研修

本来、学校をサポートであるのに、先走って活動を進めたり、意識が薄かったりする方もいて、連携が難しいこともあった。あくまでも学校の応援団であるという立場をご理解いただくことが大切である。学校へのサポートである意識付けを行うような研修会を区で多く企画・実施していただきたい。

#### (4) 連絡調整など学校の仕事量増加

応援団に委託で予算がついたことは良いことだが、応援団代表に毎回連絡を取らなければならないので、かえって学校の仕事が増加した。簡単なシステムにしたい。

## 5 応援団代表より

学校応援団の取組はとてもよいと思う。PTA としての保護者のみならず、地域の方々のお力をお借りして、子どもたちの健やかな成長を応援できることは、大切なことだと思う。これからも続けていきたい。ただ、応援団代表としての役割責任が果たせたか心配である。学校の応援をリードする立場であったが、実質は学校任せになっていた。学校のご負担をかえって増やしているのではないかと懸念が残る。今後この課題を解消していきたい。

## 6 学校長より

二之江第三小学校では、「保護者・地域とともに『共育・協働・安心』の学校づくり」を学校経営方針の一つに掲げ、今までも保護者・地域の方々による様々な学校支援ボランティアの活動が展開されていた。おやじ隊による行事の準備や片付けのお手伝い、地域の見守り隊の方々には児童の登下校の安全確保、すくすくスクールサポートセンターでは月 2~3 回の手作り教室開催や P T A との共催行事“ソーメン流し”や“ゲームコーナー”、また保護者の方々には校外学習での付添いボランティア等、多岐に渡る協働体制が築かれていた。

今年度は学校応援団 3 年目に入り、昨年同様 4 月保護者会で「読み聞かせボランティア」と「図書室整備ボランティア」を呼びかけて募集した。しかし、参加者は思うように増えてはこない。共働きの家庭が多く、また小規模校であることが要因と思われる。地域の町会も小さく、今後も学校応援団の人材確保は本校の課題になるであろう。少ない人材でできることをやる等の工夫を今後考えていきたい。